

回五

41 特 255
50
501



東丘辰園錄

堂本画塾
東丘社

昭和十七年七月初夏

始



松坂屋美術部



松坂屋



名古屋屋南大津通
東京(上野銀座)静岡大坂

堂本印象先生命名

第二回青勾會展

十二日—十七日
六階にて

京阪美術工藝界の特殊作家諸先生が独自の境地を餘すこと

なく發揮された藝術品。陶磁 宇野壯太郎、宇野賢治、宇

野仁平、漆器 堂本漆軒、鑄金 大國壽郎、織物 川島甚兵衛

清原重以知氏洋畫展

十二日—十七日
六階にて

和田和一齊の花籠と芝田千草の投入の會

十九日—廿四日
六階にて

第五回青陶會作陶展

十九日—廿四日
四階にて

第二回書畫交換展

十九日—廿四日
六階にて

澤田宗山氏作陶展

廿六日—卅一日
六階にて

堂本印象畫堂展第三回展(十一月開催予定)



神戸

三越

美術部

特 255
501

情報局後援



堂本畫塾

東丘社展覽會



堂本畫塾

東丘社小品展

會期

會場

五月五日ヨリ十日マデ・大阪・心齋橋 大丸

五月十二日ヨリ十七日マデ・神戸・三宮 大丸

五月十九日ヨリ廿四日マデ・京都・高四條 大丸



堂本印象畫塾東丘展

共同制作『大東亞戰爭』發表に就て

謹んで大東亞戰爭下御稜威のもと赫々たる戦果を擧ぐる皇軍將士の精強果敢なる奮闘に感謝し、戦歿英靈に深き哀悼の意を捧げ奉る。私達の今回共同制作の動機たるや實に茲に發する。私達は昨年大東亞戰爭直前の緊迫せる空氣の中にあつて大東亞共榮圈建設の構想の下に銃後勤勞の姿を撰び率先して共同制作を行つたのである。意圖する所は高く、技の及ばざる憾みなしとせぬが、當時些か銃後人心の昂揚に貢獻し得たることはひそかに悦びとする所である。

爾來私達はこの共同制作の試練を経て作畫技術を練磨し共同に制作する協力一致の精神に生くることに於て更に高く飛躍し益々眞に共同制作の意義に徹したいために精進を重ね來たのである。

惟ふに等しく滅私奉公の精神を以て、昨年の發表は塾員個々の名に於てし、それは十八の小集團による各個分散隊型を以てしかも塾全體を結び合ふ共同制作の方式であつたが、更に新しき共同制作の方式に苦心しつゝ、あつた時聖戰の大詔下り、個人の名に囚れざる第一線の勇士達の総合的な力が素晴らしい近代戰による戦果を擧げ行くを想ふ時、眞に滅私奉公の精神に生き個々人の名を去り物心兩面の障壁を除き塾一同全體が一丸となつて只管自己を捨て、互に心と心を、手と手をつなぎ合ふ美しき結合の下に戰時下作畫する者の新しき心構へと表現手段を見出さんとしたのである。

私達はかゝる共同制作の新しい展開の意圖の下に茲に大東亞戰爭に因む十二作を主題として撰んだ。その制作の動機に於て制作行動に於て制作の主題に於て私達は少くとも大東亞戰爭下の今日の尊き意義を想ふのである。これらの作品は勿論現地の記録畫ではないが東丘社全員を擧げて、航空機、戦車、野砲、突撃、陸戦隊、戰爭下女性その他近代兵器と旺盛なる攻撃精神の結合による聖戰のより上る力、崇高な美しさを示さうとした。もとより建設途上にあるもの、甚だ未熟とはいへ大方各位の寛容な御理解をのぞみ、御鞭撻を冀ふ次第である。

會期・會場

昭和十七年五月五日—十日 大阪大丸
昭和十七年五月十二日—十七日 神戸大丸
昭和十七年五月十九日—廿四日 京都大丸

昭和十七年六月三日—十日 名古屋 松坂屋
昭和十七年六月下旬 福岡市 玉屋



第五回東丘社展覽會出品目錄



信は力なり。自ら信じ毅然
として戦ふ者常に克く勝者
たり。

— 戦陣訓より —

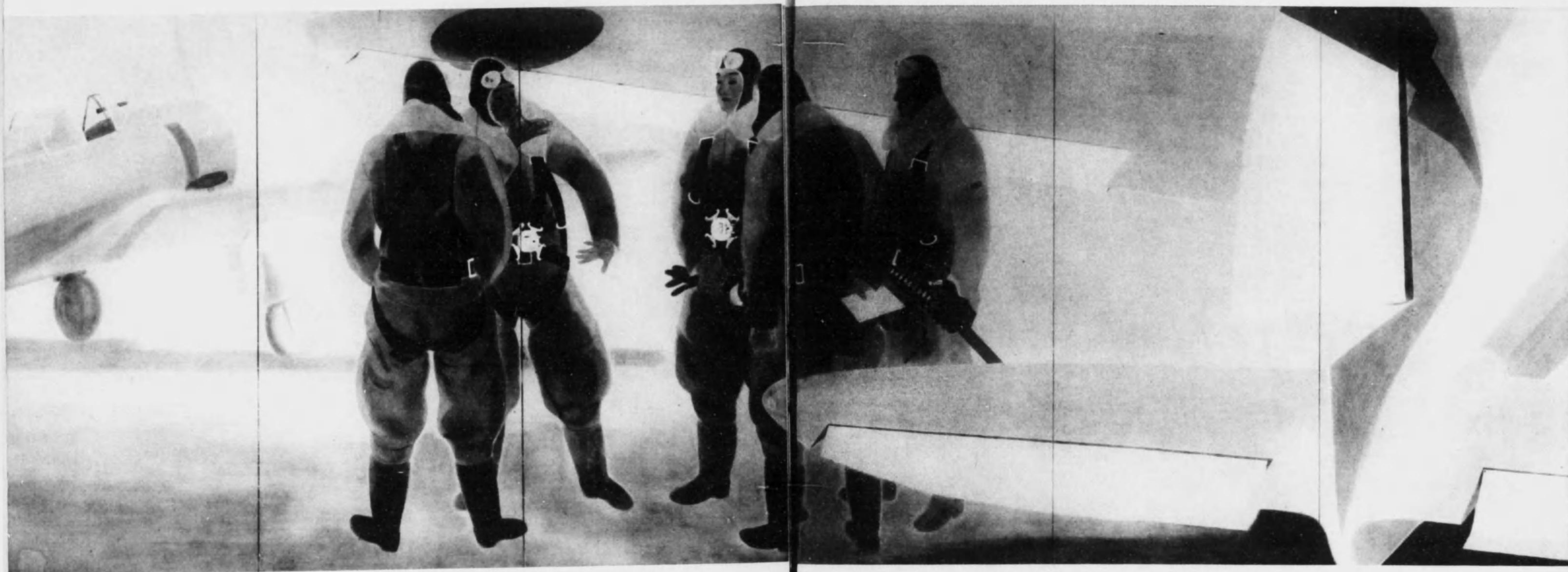
曉の一隊



ジャングルを衝く

勇往邁進百事懼れず、沈着
大膽難局に處し、堅忍不拔
困苦に克ち、有ゆる障礙を
突破して一意勝利の獲得に
邁進すべし。

——戰陣訓より——



生死を超越し一意任務の完
遂に邁進すべし。身心一切
の力を盡くし、従容として
悠久の大義に生くることを
悦びとすべし。

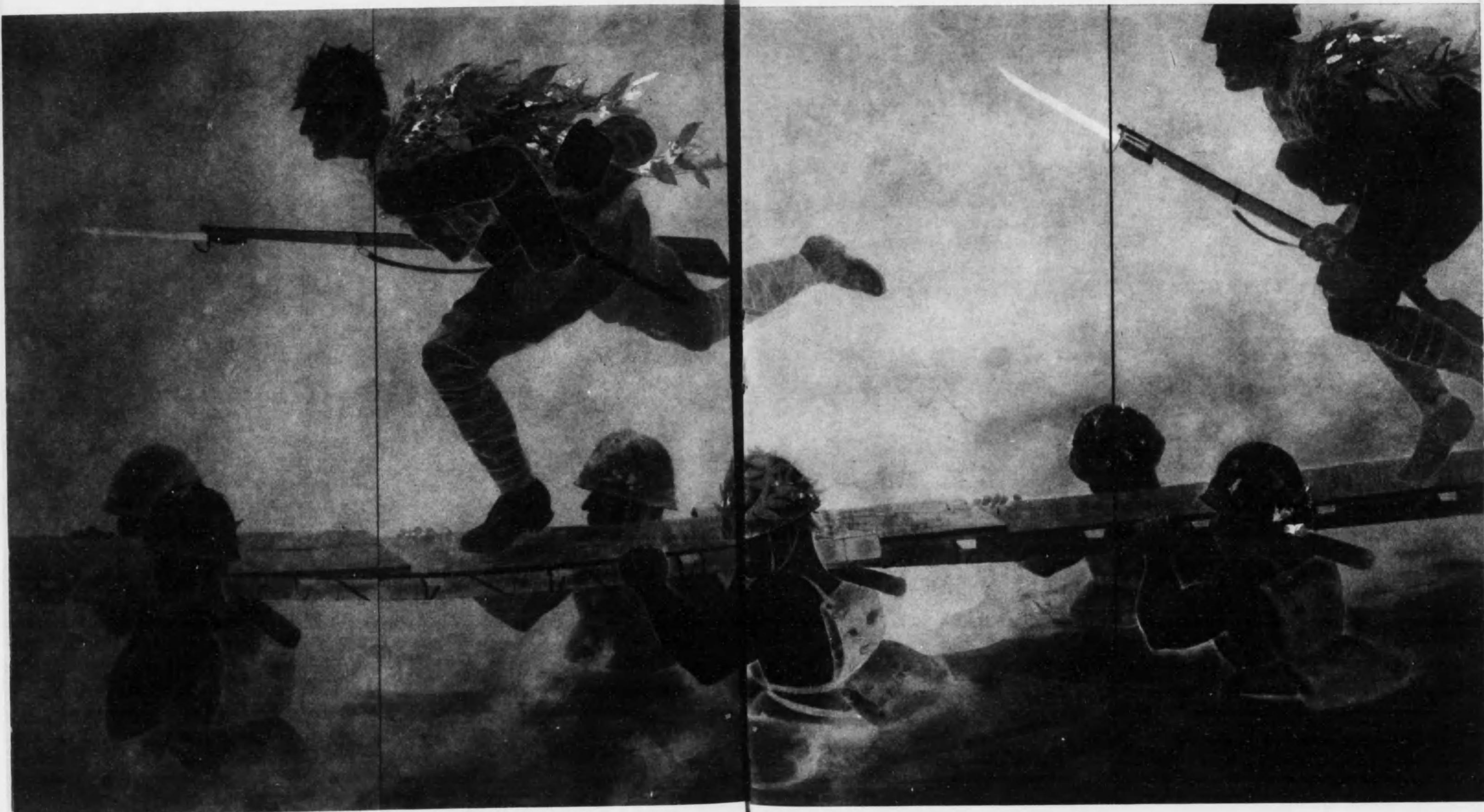
——戦陣訓より——

翼の勇士



凡そ戦闘は勇猛果敢、常に
攻撃精神を以て一貫すべ
し。攻撃に方りては果斷積
極機先を制し、剛毅不屈、
敵を粉碎せしんば已まざる
べし。

——戦陣訓より——



渡
河

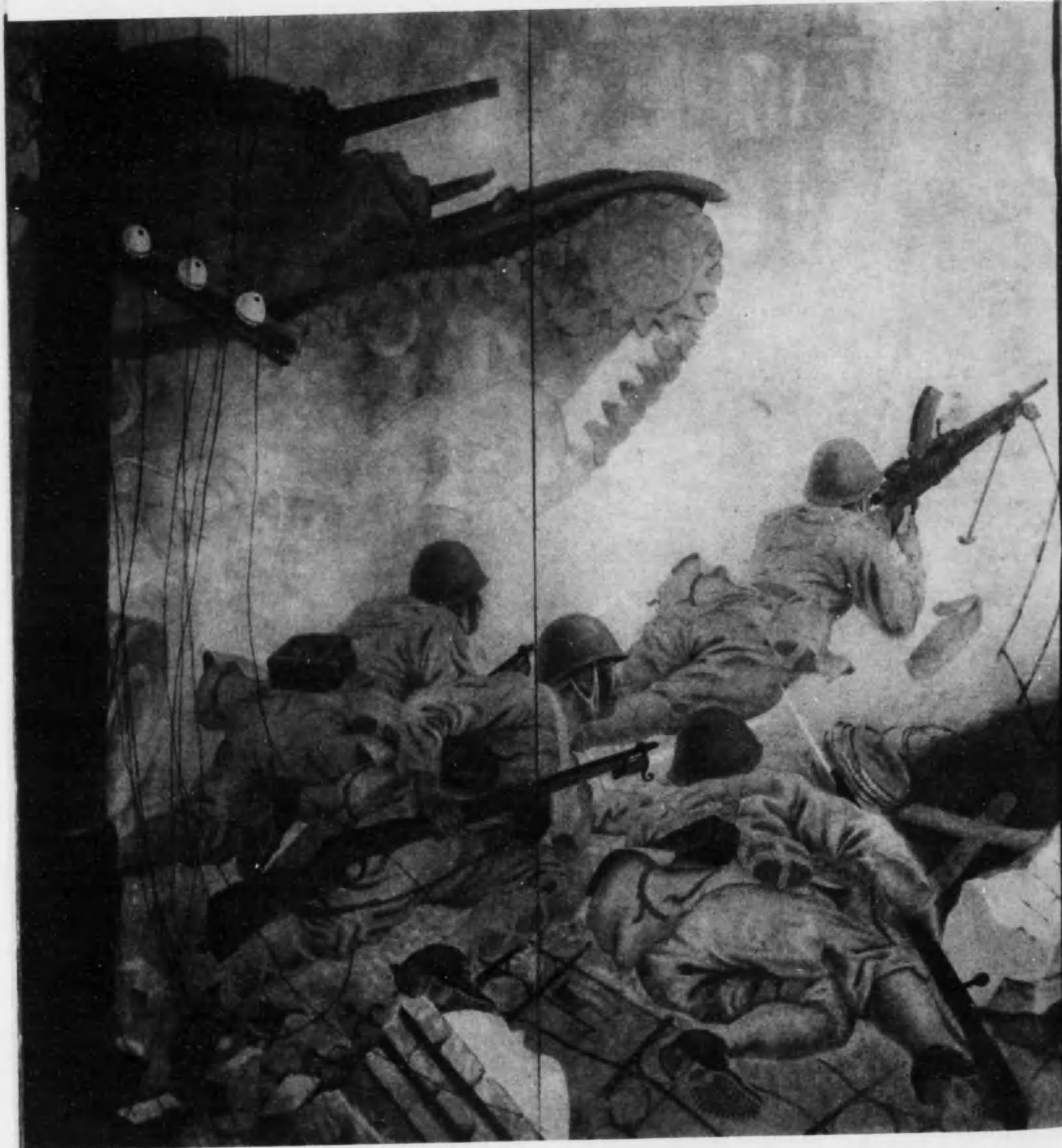
諸兵心を一にし、己の任務
に邁進すると共に、全軍戦
捷の爲欣然として汝我協力
の精神を發揮すべし。

——戦陣部より——

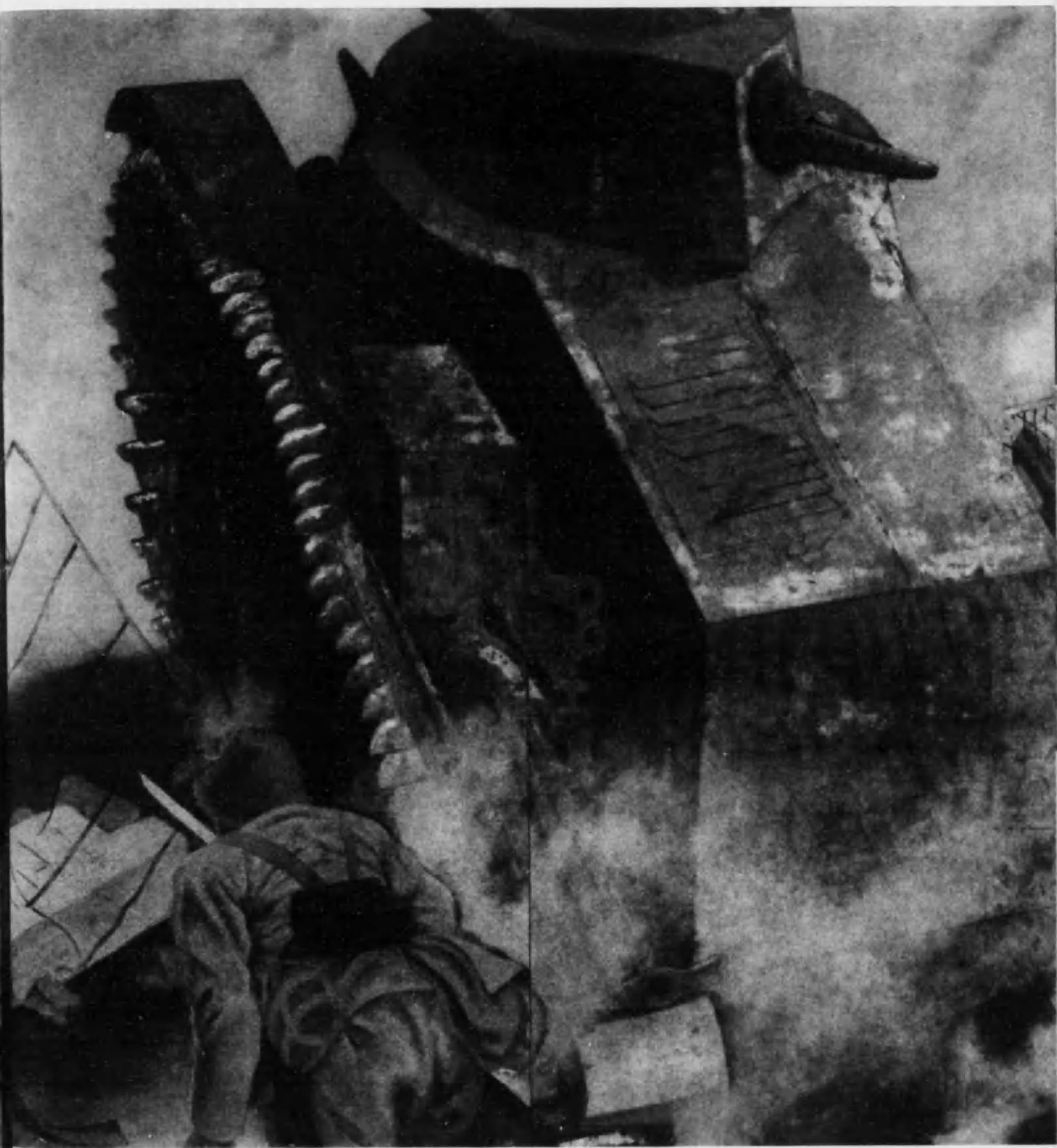


勝敗は皇國の隆替に關す。
光輝ある軍の歴史に鑑み、
百戰百勝の傳統に對する己
の責務を銘肝し、勝たずば
斷じて已むべからず。

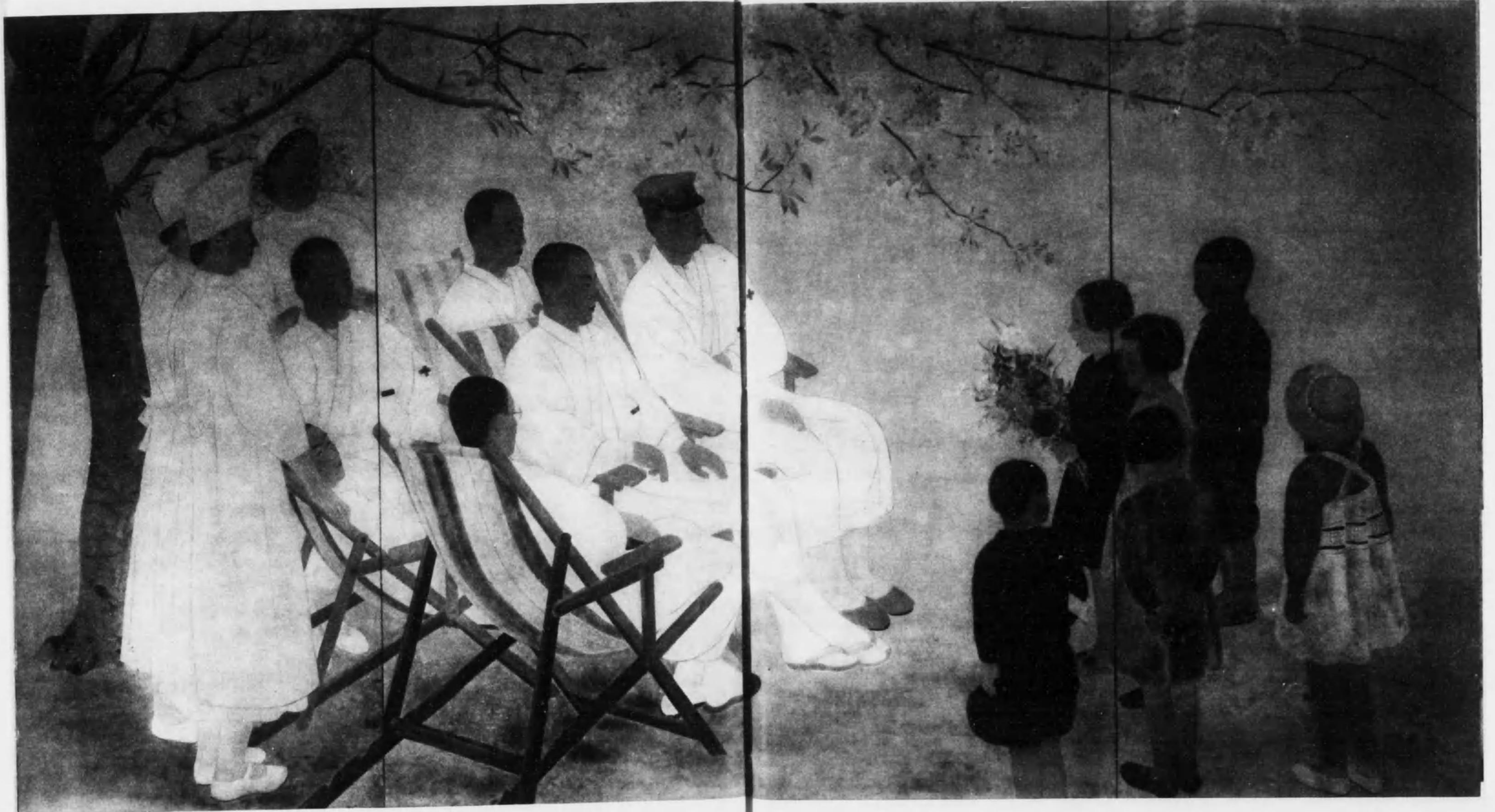
——戰陣より——



燦る市街



死生困苦の間に處し、命令
一下欣然として死地に投
じ、黙々として獻身服行の
實を擧ぐるもの、實に我が
軍人精神の精華なり。
——戦陣訓より——



春風唱和

萬死に一生を得て歸還の大命に浴することあらば、其に思ひを護國の英靈に致し言行を慎みて國民の範となり、愈々奉公の覺悟を固くすべし。

— 戦陣訓より —



凍
雪

哨務は重大なり。一軍の安危を擔ひ、一隊の軍紀を代表す。宜しく身を以て其の重きに任じ、嚴肅に之を服行すべし。

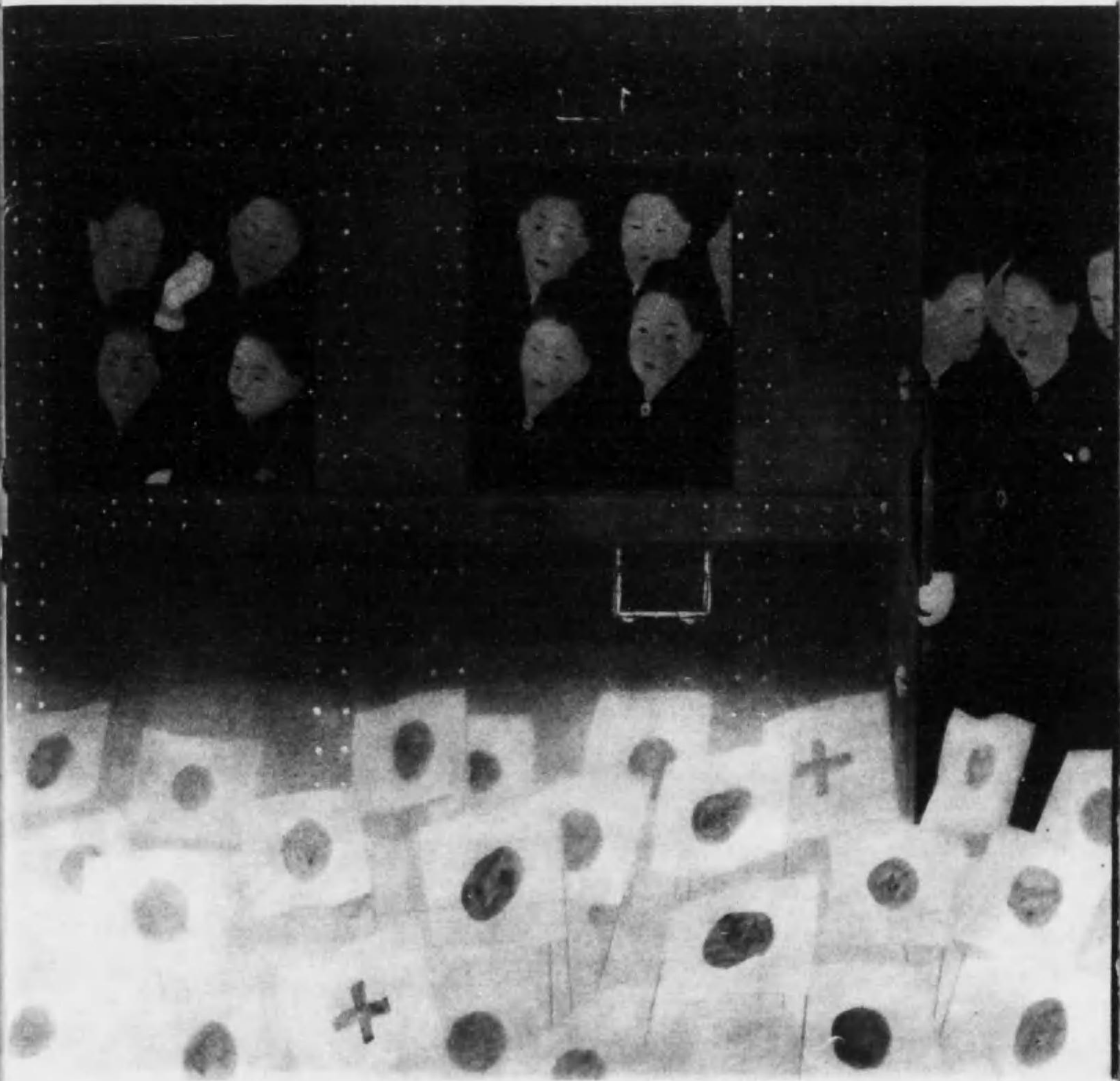
——戰隊訓より——



南の光

刀を魂とし馬を寶と爲せる
古武士の嗜を心とし、戰陣
の間常に兵器資材を尊重し
馬匹を愛護せよ。

— 戦陣より —



後顧の憂を絶ちて只管奉公の道に勵み、常に身邊を整へて死後を清くするの嗜を肝要とす。
 — 野陣源より —

歡
送



制作後記

御秘威の下赫々たる大戦果、我が前線將士の世界に冠たる勇猛果敢なる働きと尊き護國の英靈に私達は謹而満腔の感謝を捧げ感激のうち此の制作をつげました。

私達がこの「大東亞戦争」の制作を始めた動機と想念は巻頭言に盡してゐますが、この制作こそは私達に與へられたる最善の仕事として着手しました。

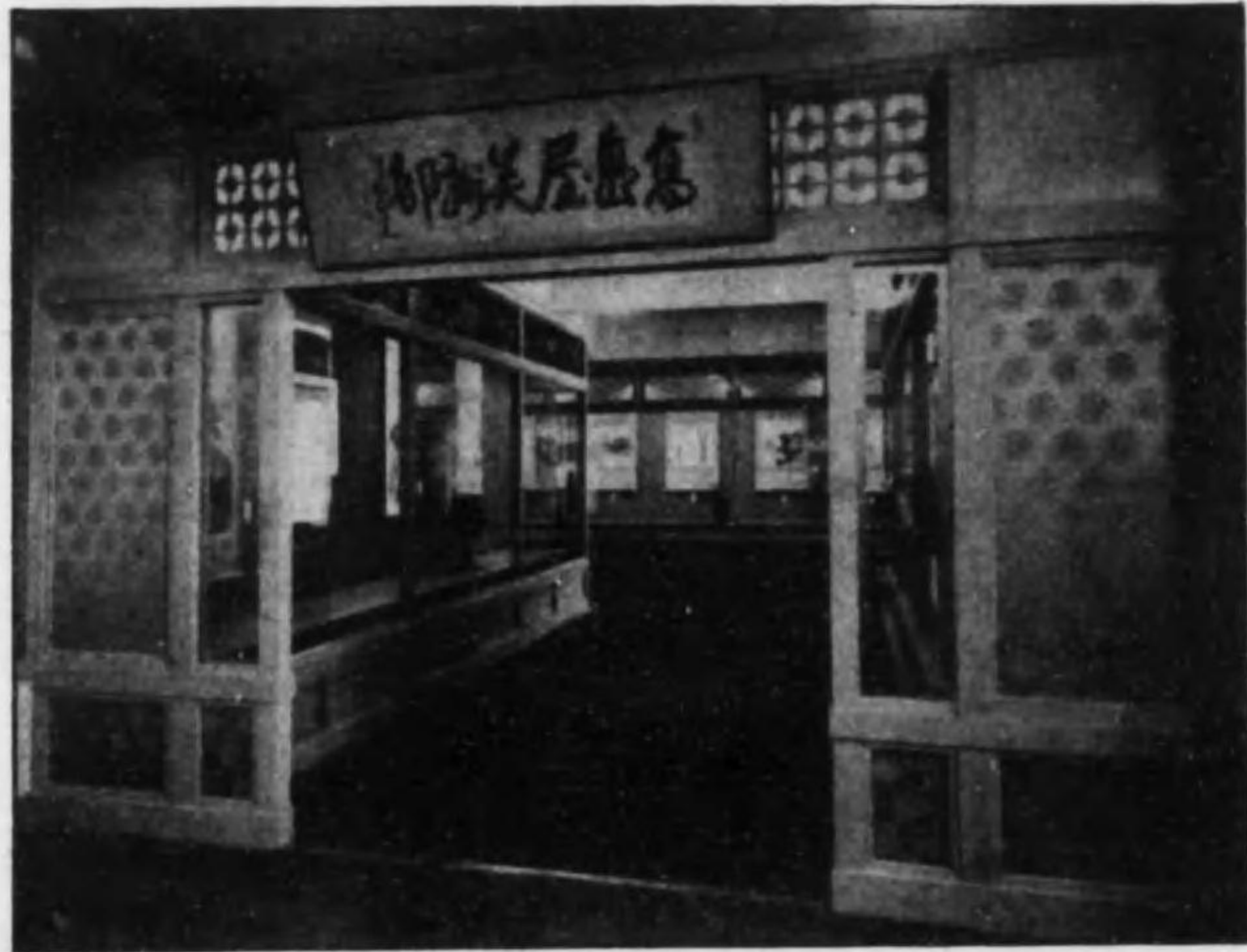
戦争を藝術化した繪畫として表現することは古來數多くその例を見て來ました。

この「大東亞戦争」共同作もその傳統に倣つて制作されたものであつて此の點實地戦線の記録繪畫ではなく且つ私達東丘社藝員一同が前線の忠勇な將士に對し感謝の現れとして私達の想念を以てして創造したところの戦争繪畫であり、もとより繪畫作圖上その實戦とは多少遠きに失し或は近代兵器の繪畫としても發表を憚る點などがあります。私達の戦争畫を描いたのは彈丸雨飛の第一線の皇軍將士に只管感謝しつゝ畫家として與へられたものを如何に全うするかといふことに精進しつゝ此の「大東亞戦争」の十二作を描きあげました。

尙この十二作を完成するに當りまして京都師團の特別の御援助と御懇篤なる御教示を戴き且つ師團報道部及憲兵隊より全作品に對して御檢閲を賜りましたことを私達は深く感謝申上ぐる次第であります。

昭和十七年五月六日印刷
 昭和十七年五月十一日発行
【東丘展圖録】
 定價 五十 圓
 東京市上野區上野三丁目三番地
 三三三 三三三 三三三
 大坂市東區南區船場五丁目三番地
 精版印刷株式會社
 京都市東區八坂路東大路西へ入る左方
 堂本畫廊東丘社
 印刷所
 発行所

418
501



高島屋美術部

大 阪 ・ な ん ば

三越の青春會

堂本印象畫伯を中心に、畫塾東丘社の方々によつて結ばれた青春會展は、毎年早春を期して開催され、清新なるその作品と相俟ちて、まことに「青春會」の名にふさはしき展観で御座います。

高大
麗板



三越

五階西館 美術部

終



大丸美術部

大阪店（四階）京都店（五階）神戸店（四階）